

# 変化し続ける社会で役立つために 実学を通してSDGsに貢献する

千葉商科大学

Chiba University of Commerce

国内の大学単体で初となる  
自然エネルギー100%大学

千葉県野田市。約4・7haもの広大な敷地にメガソーラー野田発電所の太陽光パネルが広がっている。地球温暖化対策として自然エネルギーへの期待が高まっている中、「大学が使う電力を大学の責任でつくれるか？」をテーマとして2014年からこの活動は始まった。

2014年度の発電実績は3336万kWhで、これは学内電力消費量の77%に相当した。不足する23%をキャンパス内の省エネと創エネで賄えば自然エネルギー100%のエコキャンパスは実現する。2015年には、その可能性調査を行った。そして、2017年に新たに就任した原科学長は、この活動を学長プロジェクトの

ひとつとして位置づけ、全学的な取り組みとして「自然エネルギー100%大学」をめざすことにした。

この環境目標の実現に欠かせない柱が3つある。発電所やキャンパスにおける太陽光パネルの増設や照明LED化といった「ハードウェア」の整備、電力の見える化や制御を支える「ソフトウェア」の導入、行動につながる意識である「ハートウェア」の形成だ。

中でもハートウェアづくりで大きな役割を担っているのが学内の学生団体SONE等である。学生目線で省エネへの取り組みを企画・実施し、利用頻度の低い自動販売機の撤去など省エネ型への変革を通じて学内電力消費量の削減をはかった。7月の節電ウィークではメンバーがキャンパスを見回り、冷房の効いた教室でのドアの開けっ放し、教室の電気消

し忘れ、日中の廊下の照明点灯など省エネできるポイントを探る。発見した問題の解決方法を全員で考えて実行に移し、結果を検証するPDCAサイクルを実践。ほかにも、「打ち水で涼しく大作戦」の開催など、省エネの意識や行動を全学生・教職員に促している。

そして2019年、ついに再エネ発電量と消費電力量が同量となる「自然エネルギー100%大学」を達成。この活動は各界で評価され、地球温暖化防止活動環境大臣表彰、省エネ大賞、さらに新エネ大賞なども受賞し、令和2年度版環境白書において取り組みが紹介された。

現在は、この活動を他の大学にも広げようと取り組んでいる。プロジェクトは、まだまだ続く。

(右上) 太陽光パネル計11,642枚、パネル容量は約2.88MWを誇る千葉商科大学メガソーラー野田発電所(2018年度)。  
(右下) キャンパス内で打ち水を行い、クーラーに頼らない涼しい過ごし方を実感してもらうことを目的とした「打ち水で涼しく大作戦」。SONEメンバーに加え、公募で集まった40名超の学生が声かけを行い、打ち水に参加した学生は200名を超えた。(2019年度)  
(左下) 学生団体SONEは、「みんなが快適で無理せず続けられる省エネ」を理念として能動的に省エネ施策を行い、学内の省エネマインドを醸成している。



創立以来の伝統である「実学教育」を通してSDGsに貢献するため、千葉商科大学では社会が必要とする大学であり続けるための取り組みを全学的に推進している。ここではその一部を紹介しよう。

取材・文 / 林 康章

# SDGsに貢献する各学部のおもな取り組み

## 若者と一緒に考える 地域活性化セミナー



「いまこそ、地域づくりを考える」と題し、千葉県の人口減少と社会変動、発想の転換と「地域」への着目、他者間協働の拡がりに向けた講演を行い、人口減少社会について若い世代の学生たちが取り組むべきことについて考察。

## まちづくりゲーム 企画会議プロジェクト



遊びながら地域活性化について考えられるゲームをつくるプロジェクト。参加者は架空の自治体において役職と予算を与えられ、どんな事業をどれくらいの予算で実施するとよりよいまちづくりができるか疑似体験できる。

## コミュニティカフェ プロジェクト



学内でカフェを開店・運営する体験を通じて経営の仕組みや手法を考える学部の正規科目。SDGs12番目の達成目標「エシカル消費」の貢献に向け、フェアトレードコーヒー、オーガニックジュースなどの商品を提供している。

## CUC100 ワイン・プロジェクト



創立100周年に向けた大学オリジナル・ワインの醸造プロジェクト。旧ピッチング練習場を土壌改良して耕した畑ではぶどう以外にも野菜を栽培し、「市川まま食堂」へ寄付するなど福祉活動との連携や地域交流を行っている。

## Online Asia Leadership Program



「新型コロナウイルス感染症収束後のアジアグローバル化・その再構築」をテーマにオンライン討論会を開催。各学生グループの発表について、論理構成、プレゼンスキル、主張の明瞭さなどを審査し、表彰を行った。

### 社会の課題を解決する 実学を实践する学びを

2030年までに持続可能な世界をめざすことを定めた国際目標であるSDGs。千葉商科大学では実学を通してSDGsに貢献する学びを積極的に取り入れている。

商経学部では、千葉県主催の「若者と一緒に考える地域活性化セミナー」を実施。若い世代を対象に人口減少が続く千葉県の現状や自分たちに与える影響について認識を深め、人口減少社会について次世代を支える学生たちが取り組むべきことを考える場となった。

政策情報学部の「まちづくりゲーム企画会議プロジェクト」では、ゲームを通じて地域活性化への具体的な施策を考察する新たな対話型自治体経営シミュレーションゲームの開発に取り組んでいる。

サービス創造学部では、近隣住民が気軽に集まれる場として「人、自然、未来にやさしいコミュニティカフェ」を企画・運営している。エシカル商品の提供やフェアトレードに関するパネル展示などを通じて、SDGsやエシカル消費（つくる責任、つかう責任）の啓蒙活動に注力している。

人間社会学部の学生が中心を担う「CUC100ワイン・プロジェクト」

ト」では、クラウドファンディングで運営費を募り、学生が栽培したぶどうを醸造した大学オリジナルワインを製造。農業の未来やエネルギー資源を考えるきっかけになっている。

国際教養学部の学生が中心を担う学長ゼミでは、新型コロナウイルス感染症収束後のアジアの政治、経済、社会について、他大学の学生とSDGsを軸に英語で発表・議論する討論会を開催。同大学のチームが最優秀賞を受賞した。

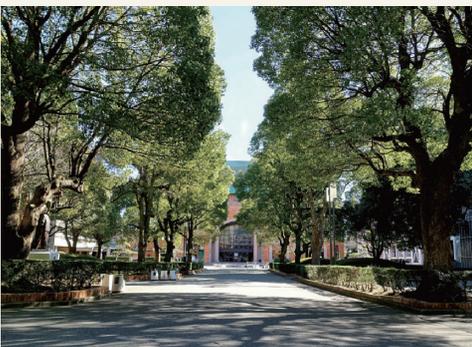
### 幅広い教養と高い倫理観を 備えた「治道家」を育成する

急速に変化する時代に対応する

ために教育はどうあるべきか。千葉商科大学では、大局的見地に立ち、時代の変化を捉え、社会の諸問題を解決する高い倫理観を備えた指導者を指す「治道家」を育成するため、SDGsに貢献する学びを通して幅広い教養を身につけるなど実学の実践を重視している。また、研究・社会貢献においては、環境・エネルギーを始め、会計学の新展開、CSR研究と普及啓発、安全安心な都市・地域づくりなど、持続可能な社会づくりに貢献する4つの学長プロジェクトも進んでいる。社会から必要とされる大学であり続けるために、千葉商科大学は社会の変化に合わせてさらなる進化を続けている。

### Information

## 千葉商科大学



巢鴨高等商業学校(1928年)を前身として1950年開学。現在は商経学部、政策情報学部、サービス創造学部、人間社会学部、国際教養学部を擁し、独自のプロジェクトによる実学教育で内外から高い評価を受けている。同大学の学生を積極的に採用する「CUCアライアンス企業」約857社(2021年1月現在)との提携や資格取得サポートなど、キャリアサポートにおいても高い実績を誇る。

### ● DATA

千葉県市川市国府台1-3-1  
TEL 047-373-9701 (入学センター)  
URL <https://www.cuc.ac.jp/>